

888
5

報新濱横

Yuzji
Hiroda

のほろ

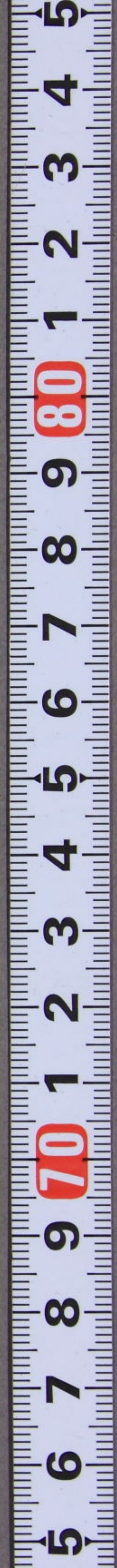
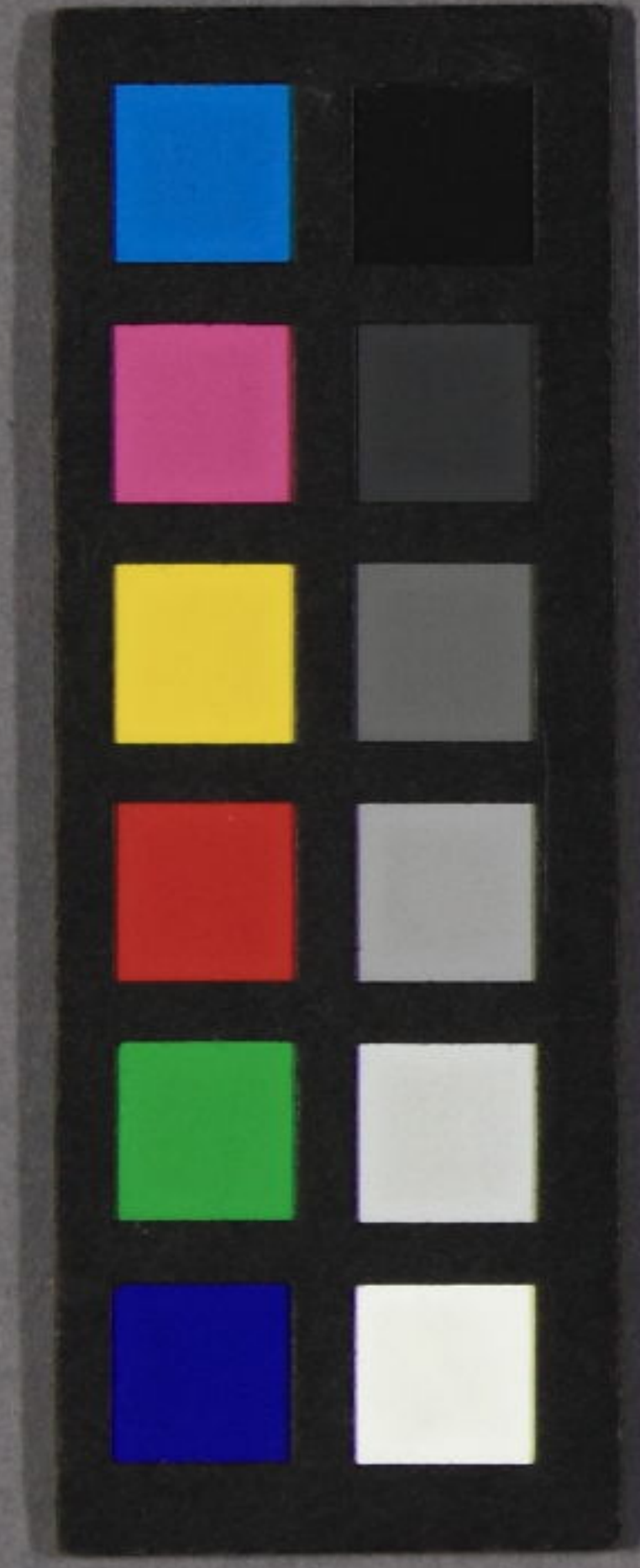
第五編

九十三番

ウエンリート

定價壹匁

K.S. ASOM

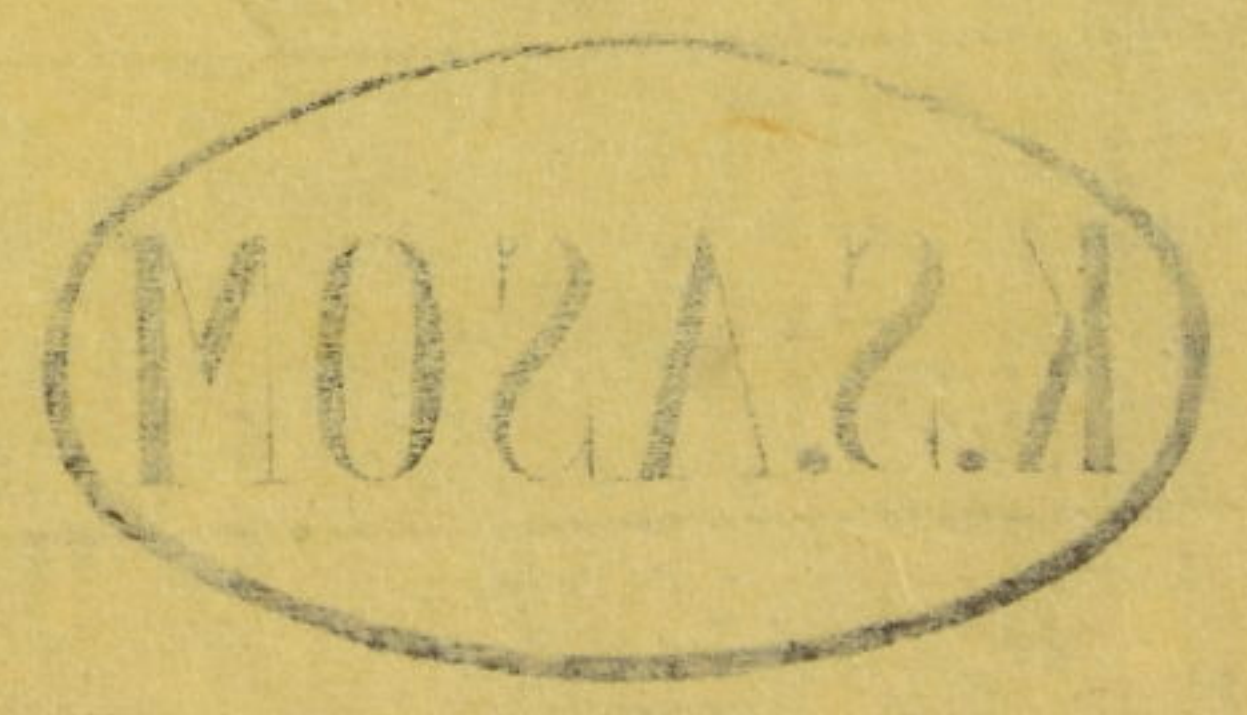


特 文庫 10
7388
5

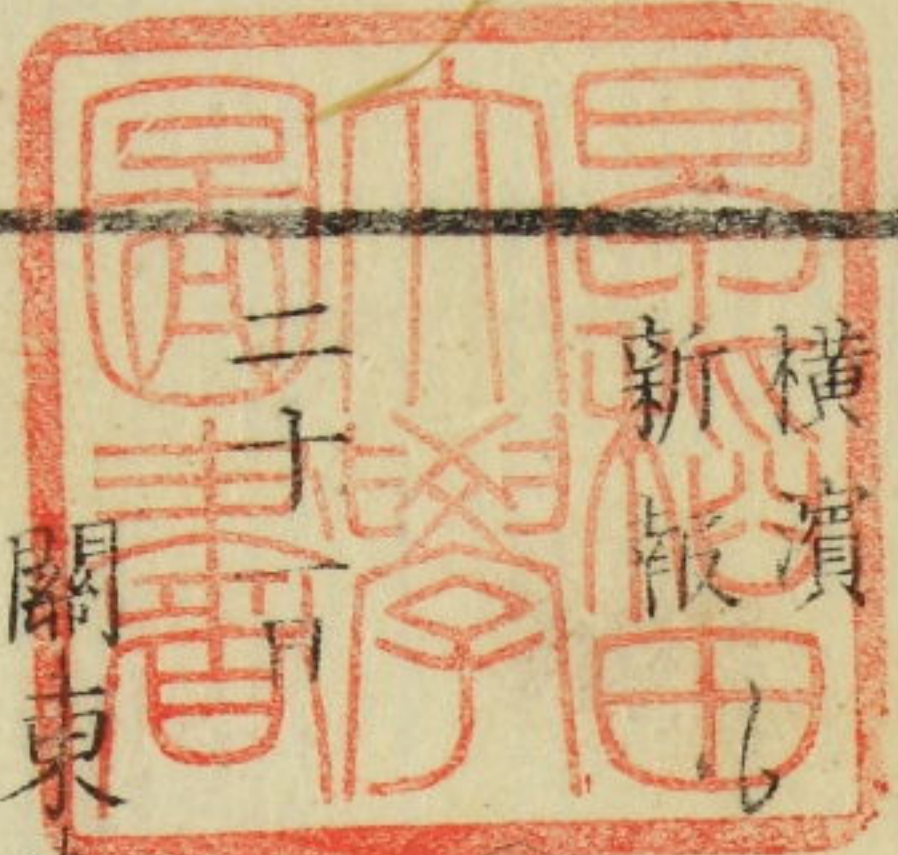
蘇 齋 傳

第五篇

宝 賈 壹 枚



横濱 新報



滑耀先生日記のつぎ

慶應四年戊辰閏四月廿四日

西 垣 文 庫

關東勢三十餘人ほく壬生城をとりかど之軍使と
 以て譜代徳川家の屬しながら東照宮御旗へ
 敵對せし罪ゆるがす速に降人とす
 城をとりあつさるべきやといをせけむ城主は
 官軍の屬せんあをのぼりて工方をとりぬ
 て古河の方にあちゆれ井伊藤堂の兵と一々に
 ちんといふ小弟あにがりの關東方小味方せん

月廿五

こゝろ兄弟争ひの何れをひに時うつりなるが攻手ハ
十分に隊伍まゝをそろけし中あたまへくる折しも何れ
其日のハツ時ころより合戦あはれをすべし備り志きるに大
砲たいぱうを打ちけるほどに城の内外のちと小火こゑ焰とあり
けしはおそろしきこといふもたあし城兵はたふ
いんとするものもくたふた煙けむりふまぢれておもしろく
まのぞお月ありあるあくて夜九ツ時をころりに
城主二百人をりり兵をひきおろし一方をきりぬち
南とゆへてあちゆれあるふ關東勢を追おひ欠ひせ
せざりけり

二十二日

關東勢壬午城を乗取のりく點檢てんけんしあるに武器
兵糧へいりやう玉たまご藥ぐすり其外金銀等おほくまをあげ
せりけるを

二十三日

官軍關宿に屯とんたる由をきく關東勢押寄
合戦ありよきにも官軍利なくし中田の方へ
引退ひききりぬ

二十四日

勝かちに乗のりたる關東勢を逃にげば未明よるより軍馬を整ととのへ

かき 四十五

中由宿へおしよせけるが官軍も嚴重げんじゆうに備へ
て待まちつけぬり九時まよりたゞひちどよりなれ
どこのまゝ勝負あつちうぶつるえさるゝ處に大村肥後守
めりまゝりめく官軍おほひに敗走さいそう志こころなりなる

二十五日

官軍はやそり中田驛に陣取ちんとくたる關東勢もけふハ
たゞめりもあふくそ日をくらゝしなる

○今日信州飯山へ會津勢五百人計おしよせて
尾州の兵と合戦ありし米澤庄内よりあけて
加勢の兵をおしたりとるまへ會津方勝利の由

○今日平尾めく官軍お生捕いけとりたる近藤勇
を死刑しつりに行ひ其首くびを京師きやうしへ送おくる

二十六日

官軍のやそり中田に陣取ちんとく居ゐるまきのふけふそと
あつより何つまより關東勢へくまよりりる人数にんすう
は南部なんぶ上杉水戸會津の兵あつび小生木村
降参くだまきの人等都合二千七百人とぞきこえし

二十七日

關東勢評議ひやうぎしるのつまきむらゝとてお
たりとる際限さいげんはる海うみけふの風雨かぜあめをさるる

小官軍を襲撃せんといふと、いさば諸將是ふ
 同トくいざいさば用意せよとく其日の午の
 刻むりに中田宿小あしきとさきとぶ川と
 河もたたりけるやうあしき風雨をひく官軍
 方向ひのせたりけさばぐへル打立られども
 物のふほどみそいさばさうもあしき會津勢を
 二百人程射手をせりくさくさく射立ける
 間より下番鎗奥州會津の住人鹿島傳藏と
 ちのや風雨をうしはにたり大身の鎗はく
 藤堂の先陣一突くかまは藤堂家の部將

山田勘右衛門ちのりいさばとくたこのい
 しが鹿島が杖やまさりけん勿心はさす
 せもたりあれをえく藤堂仁右衛門西をさして
 逃せけるが水戸の甲臣内田新吾が矢あて射
 殺されたり先手の兵ども大將二人を射殺され
 てちのあといさばさきわさされたとみげや
 されば陣にそちうし島津重二郎同主水石倉
 三右衛門等人数九千餘人下度にどつとあしき
 及ば關東勢いさく引退く小高き岡の上に
 ちのりの精兵をそちうくさんぐ小射立及せむ

重二郎は九人の者ありて討死す後陣
 にそまへて因州勢をいんて一戦にもおぼ
 敗走志ありりいざやいざいは是をなすぞとて
 申の刺はりに士卒もあま引退きあつた關
 東勢にても手負五十餘人討死八人生捕分取
 おびざりていりあるを

廿八日より急ハる不次篇にあつて近日

出板いざい

浪華よりの末信に云聞四月七日ふみと京都一
 還幸ありてけりされども市中はさむしくも
 ちがびたて内外商人をよにけりあひはさく
 ありて大筒洋鎗火薬などいよくさまをり
 事はく日本人もた進ぶりかひしをもつま
 ちが横濱のやにめんたうあることあり御一新の
 せりつたをいばよとをいほもあつる陋習ハるを
 廢せらるべしとて外商等もこれぞのぞあり
 ○十七日に法國の新ニストルよとをいほまきま
 法國の帝このむとを撰り日本につのりた

申あんの現今日本ハ南北の亂あり然し日本ハ
 最あんのべき産物ハありく北部の領地より
 出るにより此人を日本につらしつゝ小北部
 の諸侯に約しそ生糸と蠶種紙をありく買
 しめんこのめなり

○十八日キウシユウといふ火輪船にて五六百人の官兵
 と江戸におくれり

○とをりといふ帆船一艘支那の香港小錨泊しつゝ
 日本ハ旗をたたくれば日本船なるべしとて
 船將ハ西洋人なり

○十三日出の上海の書信きのふとてありしに
 日本雜貨の行情單あり、香蕈百斤ふつ、三平兩
 より三十二兩まゝ、海參上物四十四兩、次品三十二兩、鮑魚
 廿五兩より三十一兩まゝ、魷魚十兩より十六兩迄、魚翅
 白三十兩、黒十六兩ぐらゐ、蝦米十二兩より十七兩まゝ、
 樟腦十四兩より二十兩、茯苓三兩より四兩、五倍子二兩
 より三兩、蘇木三兩ぐらゐ、牡丹皮十八兩、香帶壹兩より
 三兩まゝ、帶絲上物四兩、次物二兩ぐらゐ、との壹兩と云ハ、
 洋銀壹枚三分五厘ほとほく、大抵日本乃金壹兩と
 同程なり、

○このよのゆさる醫館はく癘瘵で死ぶひやを
あまけ志より肺の臓ふ三ツので死を結つりツハ
づりくの中はくまどすくーあくーツハらみふ
ありくぬるーツハまどにらまきく何かに
ありたを

○關宿の城主久世侯の藩士南北両列ふりるが北部
小屬せる者四五十人深川伊勢崎町屋敷ふ在るに
南方屬せる藩士官軍と共ふ去廿三日赤明深川邸來り
談判く及び此處終小戦争相成り双方手負有之由

西垣文庫 時
文庫 10
7388
5

西垣文庫

時